

〔史料紹介〕

本成寺蔵『寛永拾九稔 九講坊主衆覚』

蒲 池 勢 至

ここに紹介・翻刻する史料は、本成寺（真宗大谷派・愛知県清須市一場）所蔵の「講」に関する史料である。^①書誌は横帳（縦一四・〇cm、横四〇・六cm）、四丁、表題に「九講坊主衆覚／寛永拾九稔／卯月廿一日」とある。尾張国における寛永十九年（一六四二）という時期に、どのような真宗の講があつて組織されていたか判明するものである。

本成寺は、教如上人との関係を伝える「清須六坊」に属する寺院である。この六か寺は、本史料の最初に「清須十五日講」として掲げられている。^②近世後期の『由緒書』等によれば、本成寺の開基は慶俊という。三河大浜出身で俗名を河村与治右衛門という武士であった。徳川家康に仕えて陣中御密御用を勤めていたが、西国御陣で片腕を怪我して、春日井郡落合村の枝郷分地で養生をしていた。そこで発心の志が篤くなり、家康との関係から教如上人の弟子となつて出家し「慶俊」の法名をたまわつたとある。そして再び落合村に帰つたところ、村人が帰依して林光坊という一字を建立したとある。教如上人が七日逗留したこともあつて、その時、お別れを惜しんで上人御自画御自讃の寿像一幅をたまわつ

た。寛永元年（一六二四）には、林光山本成寺と改めて現在地に移ったという^③。

こうした由緒を本成寺の法宝物のなかでみると、慶俊が願主として教如寿像を慶長十一年（一六〇六）五月に下付、本尊と親鸞真影を寛永元年（一六二四）十月に宣如から下付されているので、開基が慶俊であったことは裏付けられる。本成寺という寺号免許も本尊下付と同時と考えられ、近世寺院としての成立であった。『由緒書』の表題右上に「御坊並光明寺五分出／御目見五願書下書」とあるように、かつて常滑市大野の光明寺末であった。開基の出自や家康との関係などと共に、開創についてはなお検討の余地があろう。『九講坊主衆覚』は、寛永十四年（一六三七）に親鸞絵伝が宣如下付となっていることから、その願主になっている二代目長賢によるものと推定される。本史料はどこかへ提出したものではなく、手控えとして作成された文書である。講ごとに村名と寺院名を列挙しているが、行間が狭いので村名は後から随時挿入したようである。九講の寺院を挙げたあと「十八日講」として一か寺だけ掲げているが九講の内ではないようで、備忘のためか不明である。続いて記載漏れがあったのか重複しながら追加している。作成に際して記憶のままに記したようで、村名や寺院名の表記に宛字や間違いが多い。

ところで、この史料はどのような目的でつくられたものであろうか。『由緒書』の中に次のような箇所がある。

- 一 拙寺儀ハ東懸所無之候已前ハ、△御坊 御座
十派之内御国八ヶ寺之触頭二面百三十ヶ寺程支配いたし、
（朱筆抹消）

御国法^並△本山直状参^リ候節等ハ万端始末取斗申候

一 拙寺儀教如上人を初メ乗如上人まで、[△]奉^(抹消)様
関東御下向之節之御立寄ニ相成居申候処、

御

其後殿堂御修復ニ付御延引申上置、其俟ニ相成居申候間、^(朱筆抹消)本山御成地土而一派ニ而小格別之由緒ニ御座候

名古屋御坊は、元禄三年（一六九〇）七月二十三日に尾張藩二代徳川光友によって公許され、同年袋町御坊で移徙法要が行われた。そして、徳川光友によって元禄四年（一六九一）七月九日には、現在地の古渡城址を御坊地として寄進された。⁽⁴⁾『由緒書』では、本成寺が御坊成立以前に一三〇か寺ほどの触頭であったという。また、教如から一如までの門跡が関東下向のときの御立寄り寺院であったと述べられている。この門跡のお立ち寄り地ということが、本史料の目的と関係していると思われる。

本成寺は美濃路街道沿いに立地している。美濃路は東海道の宮宿（愛知県名古屋市熱田区）から分かれて、名古屋宿（名古屋市中区）―清須宿（清須市）―稲葉宿（稲沢市）―萩原宿（一宮市）―起宿（一宮市）―墨俣宿（岐阜県大垣市）―大垣宿（岐阜県大垣市）―垂井宿（岐阜県垂井町）に至る東海道の脇街道であった。濃尾平野を南から北西に向かう陸路で、將軍の上洛や大名行列、琉球使節などが往還した。表1は、「九講坊主衆覚」の内容を整理したものであるが、九講の分布地域は旧愛知郡・海東郡・海西郡・春日井郡・丹羽郡・中島郡、現在の名古屋市中川区・海部郡蟹江

町・津島市・海部郡大治町・あま市・清須市・名古屋市西区・北名古屋市・岩倉市・稲沢市・一宮市である。庄内川や日光川の最下流域から北西へ、庄内川の西側と日光川東側の一帯で、かなり広範囲の地域であった。この九講分布のなかで、現在のあま市以北の地域は、清須宿助郷の寄付村十三か村の地域と重なることは興味深い⁽⁵⁾。東本願寺の門跡が御下向すると、講ごとにお出迎えと警護にあたり、本成寺などの休泊地に入ると順番に御目見が許されたとみられる⁽⁶⁾。

史料では寛永十九年（一六四二）の段階で寺号を名乗っている寺院が五九か寺、坊号が一五、法名を名乗る者が九人であった。坊号や法名の者は、いまだ寺号免許にならなかつた道場形態の坊主衆たちであるが、名古屋御坊が成立するころには寺院化して講も新たに成立したり再編されていった。講は村々においてムラ組単位・男女単位・若い衆単位・手次寺（檀那寺）単位・家格単位・有志単位に結成され、尾張八郡（中島郡・海東郡・海西郡・春日井郡・知多郡・丹羽郡・葉栗郡・愛知郡）単位で郡惣代と肝煎惣代が選出されていく。文化文政期の御坊再建時には、こうした講が原動力になったのであった⁽⁷⁾。『九講坊主衆覚』からは、尾張における近世御坊体制以前の姿の一端を知ることができる。

註

- (1) 同朋大学仏教文化研究所が二〇一二年九月に調査した。
- (2) 「清須六坊」については、『名古屋別院史 通史編』（真宗大谷派名古屋別院、一九九〇年）六五頁。
- (3) 本成寺蔵『由緒書』冊子装、一―丁、本成寺九世住職による記録。『清洲町史』（清洲町史編さん委員会、一九六九年）、『きよす歴史・散策』（清洲町役場・一九九八年）等参照。
- (4) 『名古屋別院史 通史編』（真宗大谷派名古屋別院、一九九〇年）第二章。
- (5) 前掲『清洲町史』二二二頁。『寛文村々覚書（上）』（名古屋叢書統編第一巻、一九六四年）三二三頁。

- (6) 東本願寺の門跡下向に際して講のお出迎えや御目見については、拙著『真宗と民俗信仰』（吉川弘文館、一九九三年）「第三章 近世尾張の真宗門徒と講」参照のこと。
- (7) 蒲池前掲書、および同『真宗民俗史論』（法藏館、二〇一三年）「第四章 真宗門徒の村と民俗」参照のこと。

〔翻刻〕

凡例

- 一、寺名や村名で明らかな宛字・誤字は、翻刻右に（ ）で正字を入れた。不確かなものは（ママ）として脚注に入れた。翻刻にあたっては千枝大志氏のご教示を受けた。
- 一、寺院の下に番号を付け、脚注と対照させた。
- 一、脚注は、旧郡村名を最初に記し現在地名を（ ）で入れた。旧郡村名は、『尾張国郷帳』（正保三年〈一六四六〉）を整理した「行政区画変遷・石高・戸口一覧」（『愛知県の地名 日本歴史地名体系23』平凡社、一九八一年）を参照した。
- 一、寺院名の確定については、『真宗大谷派 寺院教会名簿 1994（平成6）年6月1日現在』（真宗大谷派宗務所）、『真宗大谷派名古屋教区 寺院教会名簿』（真宗大谷派名古屋教務所、一九九五年六月）、前掲『愛知県の地名 日本歴史地名体系23』等を参考にした。脚注の「○組」は、真宗大谷派名古屋教区の「組」割である。

表1 「九講坊主衆覧」一覧

| No. | 講名 | 寺号 | 坊号 | 法名 | 郡 | 現在の市町域 |
|-----|--------|----|----|----|------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 | 清須十五日講 | 6 | | | 中島郡 春日井郡 海東郡 | 稲沢市 清須市 清須市 |
| 2 | 下津十六日講 | 9 | 3 | | 中嶋郡 丹羽郡 春日井郡 春日井郡 春日井郡 | 稲沢市 岩倉市 北名古屋市 清須市 名古屋市西区 |
| 3 | 十五日講 | 5 | | 1 | 中嶋郡 中嶋郡 | 一宮市 稲沢市 |
| 4 | 二日講 | 5 | 3 | 1 | 中嶋郡 海東郡 | 稲沢市 あま市 |
| 5 | 廿日講 | 6 | 2 | 1 | 中嶋郡 海東郡 | 稲沢市 あま市 |
| 6 | 廿五日講 | 6 | | | 海東郡 | あま市 |
| 7 | 十六日講 | 3 | 4 | 3 | 海東郡 海東郡 海東郡 | あま市 海部郡大治町 名古屋市中川区 |
| 8 | 十日講 | 8 | 1 | 2 | 海東郡 海東郡 海東郡 | あま市 津島市 海部郡蟹江町 |
| 9 | 十五日講 | 8 | 1 | | 海東郡 愛知郡 | 名古屋市中川区 名古屋市中川区 |
| 付1 | 十八日講 | 1 | | | 海東郡 | あま市 |
| 付2 | | 2 | 1 | 1 | 丹羽郡 中島郡 海東郡 | 岩倉市 稲沢市 大治町 |
| 計 | | 59 | 15 | 9 | | |

壬 寛永拾九稔

九講坊主衆覚

午 卯月廿一日

清須十五日講

(一才)

井ノ口

明玄寺¹

1 中嶋郡井ノ口村(稲沢市井之口本) 7組

北市場

本成寺²

2 春日井郡清須村(清須市一場) 3組

田町

正願寺³

3 「海東郡廻間村(清須市廻間) 3組 註84と同じ

土田

光專寺⁴

4 海東郡土田村(清須市土田) 14組

本町

久證寺⁵

5 春日井郡清須村(清須市清洲) 3組

外町

本成寺蔵『寛永拾九稔 九講坊主衆覚』

淨休寺⁶

6 春日井郡須賀口村（清須市須ヶ口）3組

下津十六日講

下津

阿弥陀寺⁷

7 中嶋郡下津村（稲沢市下津）7組

同

圓通寺⁸

8 中嶋郡下津村（稲沢市下津）7組

中ノ郷

本敬寺⁹

9 春日井郡中之郷村（北名古屋市中之郷）3組

法成寺

徳圓寺¹⁰

10 春日井郡法成寺村（北名古屋市法成寺八竜）3組

徳重

林昌寺¹¹

11 春日井郡徳重村（北名古屋市徳重本郷）3組

はね

浄正寺¹²

12 丹羽郡羽根村（岩倉市稲荷）4組

沖

西圓坊¹³

13 春日井郡沖村（北名古屋市中）松林寺3組

小田井

西方寺¹⁵

同

長泉寺⁽⁸⁾
16

同

専修坊
14

たいち村

正起寺
17

(一ウ)

宮重

17 丹羽郡大地村(岩倉市大地) 4組

西光坊
18

18 春日井郡落合村の支村「宮重」(清須市春日町落合宮重) 蓮乗寺 3組

十五日講

組

をくた

正本寺
19

19 中嶋郡奥田村(稲沢市奥田) 7組

北嶋

青空寺⁽⁸⁾
20

20 中嶋郡北嶋村(稲沢市北嶋) 9組

むらい

浄玄寺
21

21 「むらい」「浄玄寺」不明

今村

善福寺
22

22 中嶋郡今村(稲沢市今村) 9組

玉野

光願寺²³

23 不明・「光願寺」は中嶋郡玉野村（二宮市〈旧尾西市〉玉野）カ

はんは

祐傳²⁴

24 「はんは」「祐傳」不明

二日講

宮花

正順寺²⁵

25 中嶋郡三宅村（稲沢市平和町上三）9組

宝飾²⁶

了正寺²⁶

26 中嶋郡法立村（稲沢市平和町法立）9組

西光坊村

忍寿寺²⁷

27 中嶋郡西光坊村（稲沢市平和町西光坊）「忍寿寺」は「忍順寺」9組

ふちたか

順智²⁸

28 「ふちたか」不明

方領新田

西光寺²⁹

29 「方領新田」は海東郡法領村（あま市方領）カ該当しそうな「西光寺」は不明

丸渕新田

正賢³⁰

30 「丸渕新田」は中嶋郡丸渕村（旧・平和町新開丸渕、現・稲沢市平

利正村

和町丸測)「正賢」不明註81と同じ村名

遊誓³¹

31 「利正村」「遊誓」不明

浅井村

明藏寺³²

32 中嶋郡浅井村(稲沢市浅井) 29組

舟橋村

東正坊³³

(二才)

33 中嶋郡舟橋村(稲沢市舟橋)「東正坊」不明

廿日講

野崎

浄専寺³⁴

34 「野崎」は中嶋郡野崎村、(稲沢市野崎)「浄専寺」なし、覚応寺が

同

圓徳寺³⁵

35 中嶋郡野崎村、「野崎」には圓徳寺なし、「圓徳寺」は稲沢市祖父

井堀

浄念寺³⁶

36 中嶋郡井堀村(稲沢市井堀中郷) 9組

堀ノ内

浄楽寺³⁷

37 中嶋郡堀之内村(稲沢市堀之内) 9組

梅塚うめづか

順教³⁸

38 「梅塚」不明、中嶋郡梅須加村（稲沢市梅須賀）カ「順教」不明

目比村

法瑞寺³⁹

39 中嶋郡目比村（稲沢市目比）「法瑞寺」不明、浄賢寺（稲沢市目比

花正村

法光寺⁴⁰

40 海東郡花正村（あま市花正）14組

同

清教坊⁴¹

41 海東郡花正村（あま市花正）「清教坊」不明

付島

敬圓坊⁴²

42 中嶋郡付嶋村（稲沢市附島）「敬圓坊」は「教圓寺」9組と推定

廿五日講

木田

福田寺⁴³

43 海東郡木田村（あま市木田）14組

津嶋⁴⁴

覚了寺⁴⁴

44 海東郡沖ノ嶋村（あま市七宝町沖之島）14組

富塚

浄教寺⁴⁵

45 海東郡富塚村（あま市富塚）「浄教寺」は「浄慶寺」本願寺派

久
古測

普光寺⁴⁶

同

西光寺⁴⁷

新屋

受徳寺⁴⁸

十六日講

かつら

法光寺⁴⁹

松葉

長福寺⁵⁰

とう嶋

遊順⁵¹

やすまつ

福専寺⁵²

46 海東郡新居屋村（あまし新居屋）〈旧甚目寺町新居屋久測郷〉本

願寺派

47 海東郡新居屋村（あまし新居屋）〈旧甚目寺町新居屋久測郷〉14

組

（二ウ）

48 海東郡新居屋村（あまし新居屋）現在は所在せず、『尾張徇行記』に「一向宗東派の受徳寺」とある

49 海東郡桂村（あまし七宝町桂）15組

50 海東郡西条村（海部郡大治町西條）西条村は松葉庄本郷であったの

で、『尾張徇行記』に「一向宗西派の長福寺」「松葉村」とも呼ばれ

ていた、『尾張徇行記』に「一向宗西派の長福寺」とある、現存せず

51 海東郡遠嶋村（あまし七宝町遠島）

52 海東郡安松村（あまし七宝町安松）「福専寺」は福寿泉寺15組

下田

浄専坊⁵³

川辺

正圓坊⁵⁴

千音寺

西光坊⁵⁵

砂子

玉専坊⁵⁶

三本木

祐誓⁵⁷

北間嶋

甚立⁵⁸

十日講

かぶと

光徳寺⁵⁹

かんのふ

53 海東郡下田村（あまし七宝町下田）「浄専坊」不明、同地にある

「恩澤寺」15組カ

54 海東郡河辺村（あまし七宝町川部）同地にある「吟松寺」15組カ

55 海東郡千音寺村（名古屋市中川区富田町千音寺）、同地に「西光寺」

なし、不明

56 海東郡砂子村（海部郡大治町砂子）玉泉寺15組

57 海東郡三本木村（海部郡大治町三本木）同地にある「光雲寺」15

組

58 海東郡北間嶋（海部郡大治町北間嶋）同地にある「本覺寺」15組

カ

59 海東郡鹿伏兎村（津島市鹿伏兎）同地に「光徳寺」なし、天保の

村絵図に「光徳寺」が描かれている

正覚寺⁶⁰

60 海東郡神尾村（津島市神尾）「正覚寺」不明、同地の「伝往寺」カ

大つほ

25組

教傳⁶¹

61 海東郡大坪村（津島市大坪）「教傳」不明、同地の「正円寺」カ25

わいはら

組

圓浄坊⁶²

62 海東郡我原村（津島市我原）「圓浄坊」不明

なますはし

徳念寺⁶³

63 海東郡鯉橋村（あま市七宝町鯉橋）25組

森

（二才）

順正寺⁶⁴

64 海東郡下麦森村（あま市七宝町下之森）25組

すなり

善敬寺⁶⁵

65 海東郡須成村（海部郡蟹江町須成）25組

西ノ森

祐誓⁶⁶

66 海東郡西ノ森村（海部郡蟹江町西之森）「祐誓」不明

いまむら

寶蓮寺⁶⁷

67 海東郡今村（海部郡蟹江町今）25組

かにへ

西光寺⁶⁸

68 海東郡本町村（海部郡蟹江町本町）25組

同

盛専寺⁶⁹

69 海東郡本町村（海部郡蟹江町本町）25組

十五日講

戸田

寶泉寺⁷⁰

70 海東郡戸田村（名古屋市 中川区 富田町戸田）26組

同

西照寺⁷¹

71 海東郡戸田村（名古屋市 中川区 富田町戸田）26組

同

盛甚寺⁷²
ケン

72 盛福寺カ、愛知郡高畑村（名古屋市 中川区 高畑）21組

はるた

浄圓寺⁷³
（兼）

73 海東郡春田村（名古屋市 中川区 富田町春田）26組

下ノいしき

正雲寺⁷⁴

74 愛知郡下ノ一色村（名古屋市 中川区 下之一色）21組

前田

圓淨寺^(盛)
75

75 海東郡前田村(名古屋市中川区前田西町)

同

正圓坊
76

76 海東郡前田村(名古屋市中川区前田西町)「正圓坊」不明

ふせや

正圓寺
77

77 海東郡伏屋村(名古屋市中川区富田町伏屋)「正圓寺」は同地にな

まんは

光圓寺
78

78 海東郡万場村(名古屋市中川区富田町万場) 26組

(三ウ)

十八日講

森

願正寺
79

79 海東郡森村(あま市森) 14組

たいち村

正起寺
80

80 註17に同じ、丹羽郡大地村(岩倉市大地) 4組

丸渕新田

法藏坊
81

81 「中嶋郡丸渕村」(旧平和町新開丸渕、現・稲沢市平和町丸渕)註

松葉村

圓長寺
82

82 海東郡西条村(海部郡大治町西條南屋敷) 15組

30 と同じ、「法藏坊」は現「明喜寺」9組

川井村

光順寺^{〔マ〕}
83

清須新田

正願
84

すかたり

遊誓
85

戸田

十五日講
寶泉寺
86

森

十日講
順正寺
87

松葉

十六日講
長福寺
88

新井屋

廿五日講
受徳寺
89

花正

廿日講
法光寺
90

83 丹羽郡川井村（岩倉市川井）同地の光禪寺カ4組

84 註3に同じ、春日井郡清須村（清須市廻間）正願寺3組

（四才）
85 「すかたり」は中嶋郡須加谷村（稲沢市平和町須ヶ谷）註31と同名

86 註70

87 註64

88 註50

89 註48

90 註40

方飾村^(宮)

二日講 了正寺⁹¹

北嶋

十五日講 青空寺^{(宮) 92}

下津

十六日講 阿弥陀寺⁹³

清須

十五日講 久證寺⁹⁴

□
□
(宮)
(四ウ)

91 註 26

92 註 20

93 註 7

94 註 5